

艇庫親水化計画

福岡県立八幡工業高等学校ボート部

親水（しんすい）とは水に親しむことを意味する言葉である。この用語は、人々が水辺の環境に親しみを感じる状況に適用される。川岸や湖畔など自然の水辺、または人工的に造られた水場を活用して、人々が水と触れ合う機会を増やす取り組みが行われている。これらの空間は、地域社会における生活の質の向上に寄与する。まさにボート部にはうってつけの考え方である。

艇庫親水化計画

以下の3つの活動を報告していく

①鳥害対策

②除草作業

③スクミリンゴガイの駆除

①鳥害対策

生態系豊かな瀬板の森公園の艇庫ではあるが鳥のフンの被害が顕著である。わざわざ船台の上にフンをしていくためその清掃で毎日15分～30分程度清掃を行わなければならない。

週5回活動×52週、260日活動で計算してみよう。

15分 × 260日 = 3900分（65時間）

言葉を失った。非常に由々しき事態である。

案山子やCD等を設置したが効果は薄かった。

かと言って捕殺するのは憚られる。

※のんきに水中の生き物を食べるオオバン



②除草作業

なぜ鳥が船台の周辺に集まるか？考えてみた。

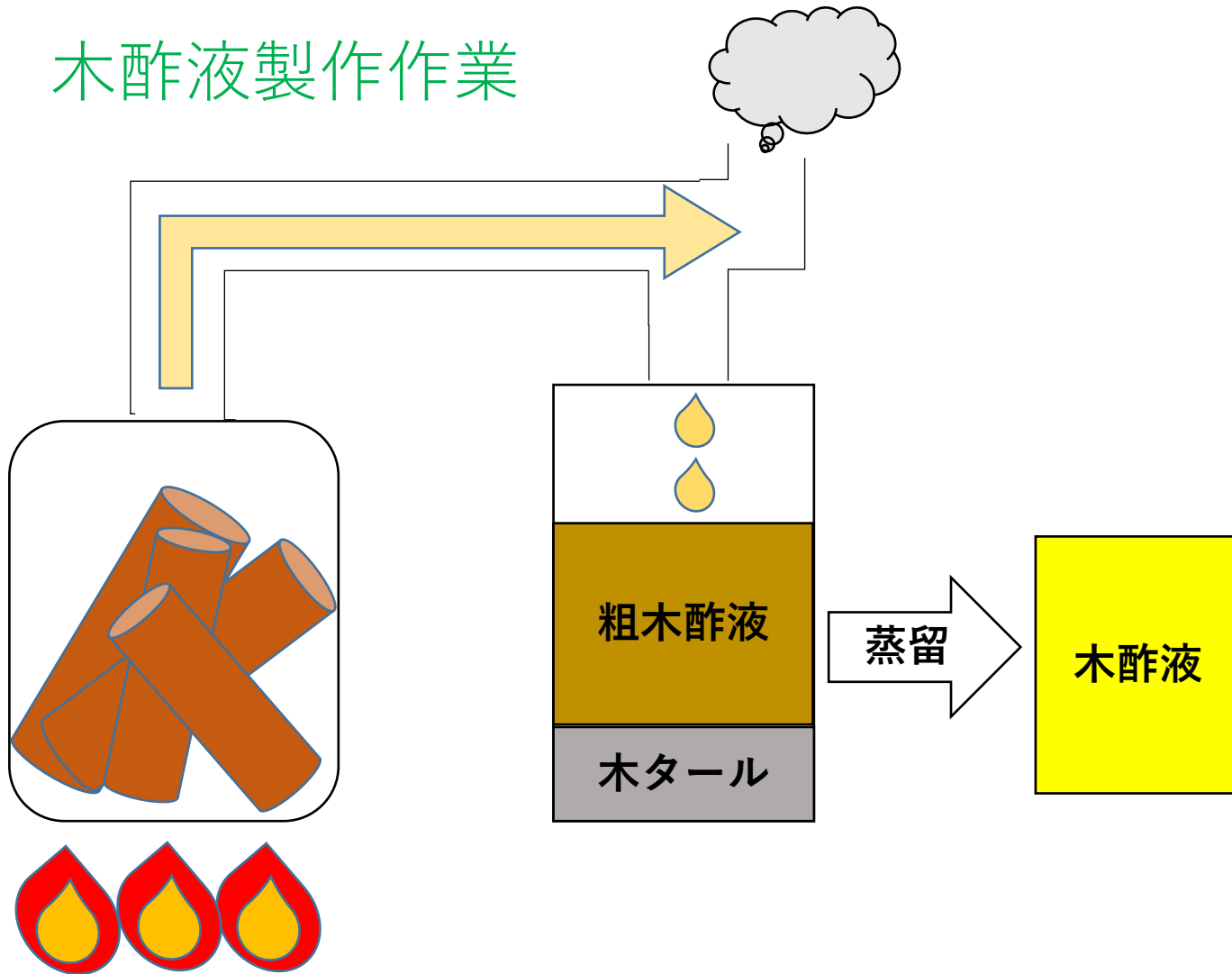
瀬板の森の艇庫周辺は雑草が生い茂るままだった。

そのため蚊や虫が多くその虫を捕食するため鳥が集まる。また特に夏場は半袖で活動するため多くの生徒が蚊に刺された。さらに雑草のせいで見通しも悪く船が沈した場合の救助の遅れが生じるため除草をする事とした。

当校は工業高校ということもあり課題研究の時間を利用して天然の除草剤である木酢液を製作を行った。

②除草作業

木酢液製作作業



左図の様に木炭を制作する際に出る煙を配管に通して冷却し回収した粗木酢液を蒸留する事で得られる。ただし今回は蒸留装置の予算がなかったため半年間放置しタールと分離したものを利用した。

②除草作業

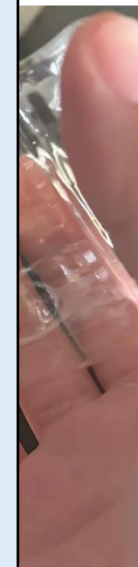
木酢液製作作業

中澄をコーヒーフィルターで

1年に2～3回程度の散布で
効果が現れ始め艇庫周辺の見通しが良くなり、蚊の数は明らかに減少した。

厚め
ない。

寺を入れて焼いた。



③ スクミリンゴガイの駆除

聞きなれない名前だがジャンボタニシと言えば合点がいくのではないか。何故か稲などが無い艇庫周辺にもかなり多くの個体が生息する姿を目にする。先のオオバンが潜水して捕食している姿をよく見かける。

この貝を捕食するため鳥が集まっているのかもしれない。

南米の悪魔とも呼ばれ蛍光ピンクの卵には神経毒（pcpv2）がある。また広東住血吸虫の中間宿主としても知られ健康への被害も懸念される。

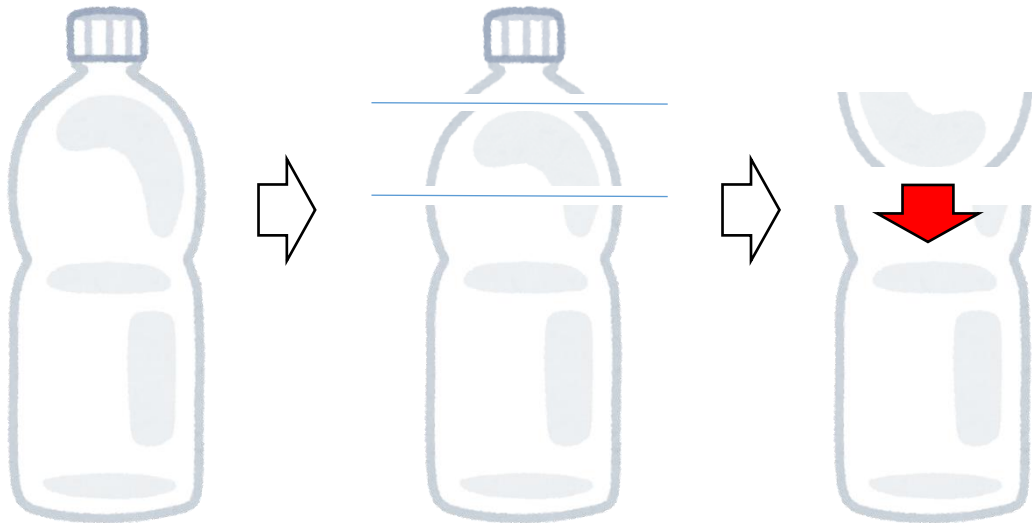
顧問は激怒した。必ず、かの邪知暴虐の貝を除かねばならぬと決意した。



③ スクミリンゴガイの駆除

当校は工業高校ということもあり課題研究の時間を利用してスクミリンゴガイの捕獲機の製作を行った。

ペットボトルを使用し入ったら出られない機構を制作。



③ スクミリンゴガイの駆除

実際に艇庫周辺に設置してみた。

稲を食べる貝のためエサは米ぬかを使用。

結果は思うように**捕獲**できなかった。

要因として気温が低く休眠状態だった事（気温17度以下で活動停止）、エサの米ぬかが水中で拡散してしまう事、目標に対して捕獲機が小さかった事が考えられる。

※なぜかザリガニを捕獲



艇庫親水化計画

福岡県立八幡工業高等学校ボート部

時間や予算の限られた活動ではあるが練習のしやすい練習場、生徒達へのネガティブフォースにならない環境づくりはとても小さな一歩ではあるがいずれ大きな結果へ繋がると信じている。

工業高校という点を長所として今後の部活動に活かしていく。